

# 藤並の森

Vol.13

高知県立文学館



●「サマービーチ（高知市桂浜）」（写真提供／南辰夫）

## リレー随筆⑬ 父のことと遠い記憶 —— 津野 輔猷

私の父は津野松生（しょうせい）。生活緩方運動の小砂丘忠義の又従兄弟にあたる。父は、明治三十八（一九〇五年）年二月二十三日、長岡郡大杉村津家（現大豊町）にて豊永寿之助の次男として生まれる。忠義の父、笛岡楠藏と寿之助が従兄弟である。杉小学校高等科二年を修了して、高知師範へ行くつもりだったが、師範を卒業して父の担任だった小砂丘に「師範なんぞやめちよけ」と言われて長岡郡立准教員養成所に入る。大正九年養成所を卒業して、十六歳で大杉村立川小学校に赴任した。

小砂丘は高知師範で同級であった中島喜久夫（後年、菊夫の名で漫画家となる）、吉良信之とSNK協会（三人の姓の頭文字）を作り、教育の革新を唱えて「極北」「地軸」などを編集してガリ版で刊行した。父も時々手伝わされたようだ。

大正十五年四月、父は小砂丘の後を追うようにして上京し、同年九月平凡社に入る。社長の下中弥三郎氏とは大正十四年、小砂丘が下中氏を高知に招いて講習会を開いた時に知り合つてゐる。後年、私も平凡社へ入ったので、親子二代同じ会社につとめたことになる。

昭和五年、父は、津野重忠・信恵の長女政美と結婚。仲人は中島菊夫・覚（さとる）夫妻、親代わりが小砂丘であった。私が結婚した時も中島夫妻に仲人をお願いしたから、ここでも親子二代世話をなったことになる。因みに祖父重忠は旧姓を友永といい、人形作家友永詔三の曾祖父と兄弟で、その末弟にあたる。覚夫人は旧姓橋本、小砂丘夫人等（ひとし）さんの妹である。

私の父は津野松生（しょうせい）。生活緩方運動の小砂丘忠義の又従兄弟にあたる。父は、明治三十八（一九〇五年）年二月二十三日、長岡郡大杉村津家（現大豊町）にて豊永寿之助の次男として生まれる。忠義の父、笛岡楠藏と寿之助が従兄弟である。杉小学校高等科二年を修了して、高知師範へ行くつもりだったが、師範を卒業して父の担任だった小砂丘に「師範なんぞやめちよけ」と言われて長岡郡立准教員養成所に入る。大正九年養成所を卒業して、十六歳で大杉村立川小学校に赴任した。

小砂丘は高知師範で同級であった中島喜久夫（後年、菊夫の名で漫画家となる）、吉良信之とSNK協会（三人の姓の頭文字）を作り、教育の革新を唱えて「極北」「地軸」などを編集してガリ版で刊行した。父も時々手伝わされたようだ。

大正十五年四月、父は小砂丘の後を追うようにして上京し、同年九月平凡社に入る。社長の下中弥三郎氏とは大正十四年、小砂丘が下中氏を高知に招いて講習会を開いた時に知り合つてゐる。後年、私も平凡社へ入ったので、親子二代同じ会社につとめたことになる。

昭和五年、父は、津野重忠・信恵の長女政美と結婚。仲人は中島菊夫・覚（さとる）夫妻、親代わりが小砂丘であった。私が結婚した時も中島夫妻に仲人をお願いしたから、ここでも親子二代世話をなったことになる。因みに祖父重忠は旧姓を友永といい、人形作家友永詔三の曾祖父と兄弟で、その末弟にあたる。覚夫人は旧姓橋本、小砂丘夫人等（ひとし）さんの妹である。

昭和十二年十月十日、小砂丘忠義は東京市豊島区長崎東町二一七一五で肝硬変のため亡くなつた。

一番先に来た田中貢太郎は、「あんまり泡盛を呑みすぎたぜよ。ありやいかんとあしが言うたち、あればかり呑みよつたきに、それでしゃんとやりそこのうた」と言つたそうである。父と貢太郎の出会いは小砂丘を介して、博浪沙の会などに出入りして尾崎一雄、田岡典夫、井伏鱒二らとも知り合い、貢太郎の死んだ時は、親の死よりも悲しかつたと書き残している。

昭和七年生まれの私に小砂丘のおじさんの記憶はないが、住んでいた長崎東町の家はおぼろげに覚えている。二階に長女夢ちゃんの部屋があり、そこで夢ちゃんはマッチの小箱に入れた、手作りの野菜をみせてくれた。それは画用紙をていねいに切り抜き、クレヨンで色を塗けたもので、大根、カブ、ホウレン草などいろいろあったようだ。当時、私たちの住んでいた中野区野方には上田庄三郎氏も住んで居り、一家とは親類同様の付き合いで、耕一郎・健二郎（不破哲三）兄弟は、小学校の先輩でもある。

また、同じ区内鷺宮に住んでいた中島菊夫氏の家には講談社の絵本がそろつていて、遊びに行くのが楽しみでその度に夢中で読んだものである。飼われていた二匹の白いベルシャ猫と、私たち一家（父と母と私と妹）を題材にした家庭漫画をもらって読んだ記憶があるが、今はその本の題名も思い出せない。

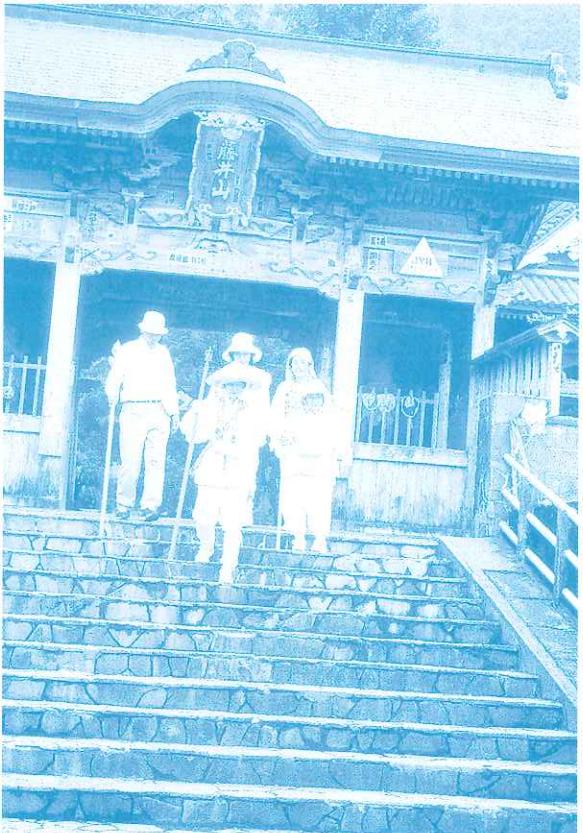
（元編集者）

◆次回企画展によせて◆

# 土佐のむかしばなしと伝説展

一 夏季企画展 一

とんとむかしにあそびにきいや！



「弘法伝説・土佐靈場めぐり」より

最初の花の色とはまったく違っていることもよくありますし、まるで違う種類の花のように見える場合もあります。生き物であるだけに、どちらどころがないこともあります。

ときには、書物からの影響など、語り以外の要素が加わる場合もありますが、いつどんな影響を受けたかなどは、すでにわからなくなっています。また、反対に、本来は語っていた話を文字にした書物も、ふるくは、たとえば説話集である『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』、現代では、口承文芸を素材にしながら作



展示会場をいろいろと民話おもちゃ(樋上潔・作)



「土佐の地蔵さんめぐり」より

者の脚色を加えた民話絵本などといわれる作品まで、書物と語りとは複雑にからみあい、影響しあっている、いわば切っても切れない関係をたどっています。

\* \*

今回の企画展「土佐のむかしばなしと伝説」では、土佐の代表的な昔話や伝説などを紹介しながら、昔話の生まれ育った背景をさぐり、さらに昔話が文字になって読まれようになるまでの過程をたどつてみました。

あらためて昔話や伝説などをみなおしてみると、そこには私たちの生活にはほとんど見られなくなってしまった民間信仰や、生活意識などを見

**昔話、伝説、世間話：**これら的话は、いつからとも、だれからともつかず、語り伝えられてきたものです。

どれも、紙の上に文字をならべて作られた作品ではなく、無数の名もない語り手と、それにあいづちをうつたり、ときにはまぜつかえしたりする聞き手によってゆっくりと形を変え、色を変えながらつくられてきた作品といえます。全国各地にある話の種類は膨大で、それらはどれも、どんな文豪にも描けないような力強い生命力があふれています。

このたび、当館では、「土佐のむかしばなしと伝説」と銘打って、この民話の世界をとりあげた夏季企画展を開催します。

**昔話、伝説、世間話：**これら的话は、いつからとも、だれからともつかず、語り伝えられてきたものです。

どれも、紙の上に文字をならべて作られた作品ではなく、無数の名もない語り

ここ土佐には、なによりゆたかな自然と、あかるい風土があります。その中で生まれた、もつとも土佐らしい、知られる傑作がたくさんあつたのです。

\*

民話はまさに生き物としかいよいのがありません。

遠い昔にどこかで生まれた話があるとします。話の種は、たとえば行商人や旅の宗教者など、各地を移動する人にひろわれて、山を越え、谷を越えます。その人が別の土地でその話をすると、そこに話の種は落ち、そこで根をおろし、土地の言葉で、土地の語り手によって語られるうち、その風土にもつとも適した別の花を咲かせるのです。その花の色は、

つけることができます。

そこにあるのは、たしかに、現代の私

たちと同じように日々の生活に追われ、ささやかな幸福と不幸のくりかえしを生きていた、ごく普通の庶民たちの感覚です。けれど、生活環境の変化によって、現代の私たちには、もう想像もつかない、手の届かないほど遠くなってしまって、見つけることさえできなくなつた感覚もあるかもしれません。昔話や伝説が、民俗学者たちによって研究され続けてきたのは、その中にある民俗社会の生活感覚をつかまえるためだったのでしょうか。

今、昔話の純粹な語り手は全般的にも極端に少なくなっています。もともと土佐は、温暖な気候からか、雪国とくらべて長い昔話は発達しなかつた土地柄です。話の長さは短く、どちらかといえば、閉炉裏端でじっくり聞かせる昔話よりも、仕事のあいまにする世間話や、笑い話などが多く好まれていました。そして、親から子、子から孫、というふうに語り伝えられてきた昔話を、自分も語ることができ、という人はもう県内にはほとんどいないといわれます。

ただ、新たな形で語りをはじめた人は出てきます。「耳で聞いたり、本で読んだ話」を巧みな口調で語り聞かせてくれる、鏡村の「民話おじいちゃん」と下本國重さんなどはそのよい例だといえます。世間話や笑い話の多い土佐の特徴を、下本さんの語りもよく受け継いで、楽しい語りがくりひろげられます。

自分の生まれ育った土地の昔話などを集めて、自分の口調で語る。それも現代的な昔話の生き方だといえるでしょう。土地の昔話を素材にしつつ、独自の脚色を加えた『民話絵本』などもそのよい例

です。“作者”的な脚色が加わってしまうと、民俗研究の素材にはもちろんできませんが、活字になって広がるということは、あたらしい昔話の可能性を示しているといえるのではないでしょうか。

本展を通して、昔話や伝説の世界を楽しんでいただき、さらにかつて同じこの上佐に生きていた人々のつましくもたくましい姿をさぐつていただければ、なにかが見つかるかもしれません。夏休みに、ぜひ文学館に遊びに来てみてください。

(学芸員 野中佐知子)

奈良絵本（高知市民図書館蔵）



長者伝説の残る仁淀村  
日吉神社の猿面



県内各地の奇談が集められた絵本（年代・作者不詳、個人蔵）

### 展示内容

昔話の風景／土佐の昔話と伝説～山・里・淵・海～／土佐の地蔵さんめぐり、弘法伝説・土佐靈場めぐり＝市原麟一郎／さわって遊ぼう民話おもちゃ／民話絵本原画展示＝狩野富貴子／民話絵本を読むコーナーほか

### 関連行事

#### ■かみしばい劇場＆むかしあそび体験

「土佐民話の会」市原麟一郎さんによる紙芝居（各3本）、なぞなぞあそびと、「高知子どものあそび研究会」のみなさんによるむかしあそび。

○高知県立文学館ホール／参加無料（参加者には各日先着30名様に民話カードセットをプレゼント）／各日午後2時より3時30分まで

○仁淀川民話めぐり＝7月1日(日)／10日(火)／20日(金・祝)

○土佐のおばけばなし＝8月1(水)／10日(金)／19日(日)30日(木)

○むかしあそび＝竹馬、輪まわし、かるたとり、けんだま、こままわし、お手玉…などなつかしいむかしあそびの数々を、いつしょに体験してあそびます。

#### ■土佐のお地蔵さまめぐり

「土佐民話の会」市原麟一郎さんによる、土佐のお地蔵さまのスライド上映と解説。

○高知県立文学館ホール／参加無料／各日午後1時30分より3時まで

○7月28日(土) 8月4日(土)／25日(土)

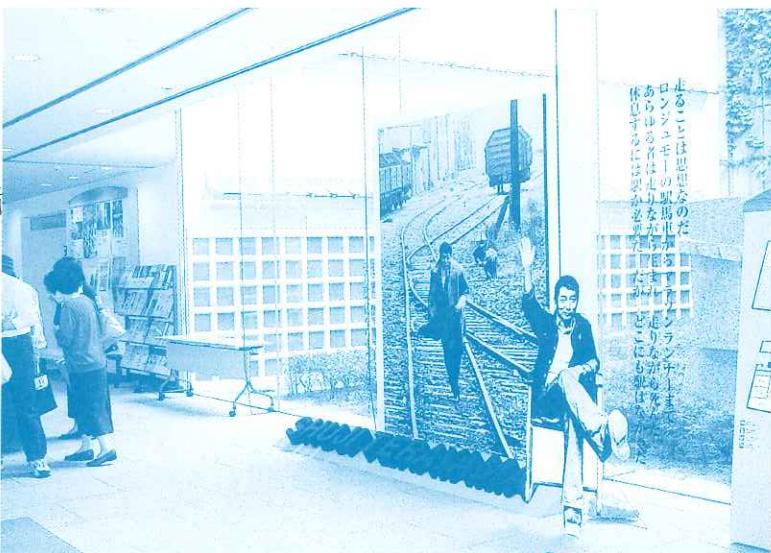
## 学芸員メモ

## 「寺山修司展」を終えて

走ることは思ひなのだ  
ロンジュモーの聖馬牛がるアーヴィングランチトマ  
あらはる者は走るなアーヴィングランチトマ  
体育するには走るなアーヴィングランチトマ  
どこにも走るなアーヴィングランチトマ

四月二十六日午後八時、十一トンの美術専用車が文学館の駐車スペースの半分を占領した。二十八日から始まる「寺山修司展」の資料はトラックにあふれてい  
る。展示資料の点数の多さ、立体物の大きさ、今までにない展示になるだろう。わくわくする期待と、二日間で、この規模の展示作業を完了できるのだろうか、不安を感じる。早速、渋谷と麻布の「天井桟敷館」のゲートと、晴海国際貿易センターで公演された同時・多発で進行する「百年の孤独」の舞台模型を、地元の業者が組み立て始めた。ケース、仕切りなどを配置し、展示スペースを作る。大きな展示物を想定していない文学館の通路は狭い。予定時間から随分遅れてい

る。大坂からの応援が帰る。夜、十二時、「今日は、これまでにしよう。」翌二十七日、展示資料を慎重に並べていく。特別協力者、九條今日子氏が来館。ほぼ完成された展示室を確認する。資料の最終チケットをしながら寺山修司の遊び心を展示に加えていく。午後五時、翌日のテーブカットの準備がされた。会場演出のJ.A.ザーザ氏から、明日からの展示会場の照度、映像の音量などについて、多くの注意がなされる。寺山修司が闘犬や犬神に興味を持ち、ニッポン呪術紀行<sup>3</sup>「闘犬賤者考」「旅」一九七三年三月号)の取材のために、ここ高知を訪れてから何年の歳月が流れているのだろうと、ふと思う。



文学館入り口ホール

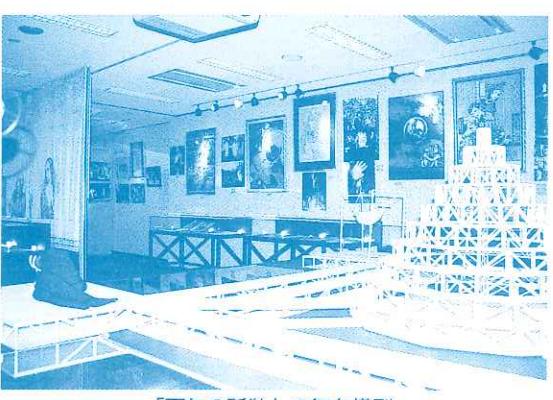
開催期間中はいつもの静かな文学館ではなくたった。入り口では、寺山修司のパネルが手を挙げて迎えてくれる。それに答えて手を挙げて入って来る人。「天井桟敷館」ゲートを、くぐって薄暗い一階展示室へ、いきなりの映画「田園に死す」や「さらば箱船」の映像と音声に驚く。そこで、ある人は、独創的な映画に倒された時代を思い出しながら懐かしみ、ある人は驚異の気持ちをあらわにする。展示室奥では、寺山修司のインターと演劇「邪宗門」「奴婢訓」「ノック」などの編集された映像が流れる。こ

こでは、今なお感じる前衛的センスにしばらく足を止める。これらが、ヨーロッパ各国で認められた寺山の世界なのだ。薄暗い部屋は、良い意味でも悪い意味でも人々にひとつ衝撃を与えたようだ。

階段に延びたなわに導かれ、ロビーに展示された「幻想写真・犬神家の人々」を見ながら、二階展示室へと進む。ここでは、彼の原風景・三沢市での少年時代。ことばの世界に頭角を現しはじめた高校時代の俳句界での活躍。恩師との関わり。常に二番目を愛した寺山修司のボクシングや競馬など。今なお、多くの人の心を虜にしている業績を追いかながら生涯の軌跡を紹介している。この会場に流れれる寺山修司独特的アクセントの詩の朗説には、多くのファンができる。訪れた人は、「へえ、寺山修司って本も書いたがや」と、「競馬もよったがやねえ」と、演劇、映画、文学、スポーツなどの寺山



「天井桟敷館」(渋谷)のゲート



「百年の孤独」の舞台模型

修司の断片の一つ一つを合わせて「テラヤマワールド」として捉えることができたようだ。彼の肉声を聞き、五十年前の歌人寺山修司を懐かしむ婦人。学生時代、彼の演劇を見たという男性。今、再び「家出のすすめ」を読み返したという寺山世代の人。若者は、「生きた寺山修司に接したかった」とメモを残している。

## 閲覧室から

2001年3月世田谷区大蔵4-2-26  
公文徹著・発行。(私家版)2000円。  
閲覧室でもお読みいただけます。

### 短編集

## 龍馬と半平太

公文 徹著

ふるさとへの思いは、異郷に暮らし  
て、より自覚されるものかも知れない。  
一九三六年高知市生まれ、東京在住の公  
文徹さんのこの短編集に氏の土佐への熱  
い思いがぎっしりと詰まっている。

「勇魚岬」「燈ノ浜の人びと」「井口事件」

「龍馬と半平太」「秋水」「奈半利川」「山  
内容堂の復讐」の六編。どの作品も、よ  
く郷土の資料を博搜された上での筆者の  
冷静で人間的な考察がある。

幕末維新の激動の土佐に材を探り、井  
口の刃傷事件や野根山事件などのほか、  
海防・砲台づくりのこと、盛んなりし鯨  
組の捕鯨のことなど様々だが、特に県東  
部の浦々と人々がいきいきと描かれる。  
龍馬や半平太や山内容堂など歴史に名を  
留める著名人も登場するが、そんな時代  
にも精一杯生きた村娘や青年漁師、浦人  
村人への細やかな視点にこの筆者の本領  
があるかも知れない。読後につわやかな  
感動が残る。ぜひ一読をお勧めしたい。

(佳)



2階ロビー

記念トーク「寺山修司を

きらめく間の宇宙」は六月  
三日に終了した。この間、  
寺山修司を教科書で知った  
若者から、文壇にデビュー  
した青年寺山修司のファン  
になった世代まで多くの  
人々が、今なお拡大しつづ  
けるテラヤマ・ワールドを  
体験した。ここから、「私は  
質問になりたい。」と言つ  
ていた寺山修司のメッセージ  
を受け取り何かを感じ、  
何かが残れば、うれしく、  
この企画展は成功だったと  
思う。

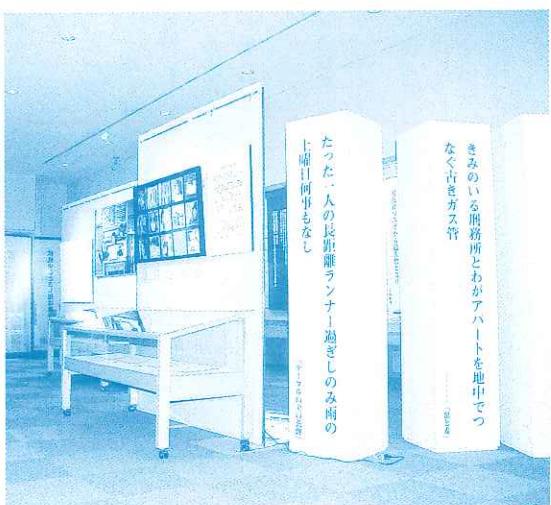
## 県内同人誌紹介

月刊

## 『土佐の民話』



雑誌には、毎号二十話程度の民話が掲  
載されるので、今までにおよそ七千話の  
「土佐民話」が記録され、後世に伝承さ  
れたわけである。雑誌を編集していく感  
じることは、土佐には「現実的な話（伝  
説や世間話）」が多いことや、笑い話  
(おどけ者)、現代民話の宝庫であるこ  
が痛感された。それから、編集者冥利に  
つきることは原稿に困らないことである。  
会員の強力なバックアップのおかげ  
と感謝している。毎号欠かさず原稿をよ  
こしてくれるレギュラー執筆陣をかかえ  
ているので、雑誌の発刊を休むわけには  
ゆかない。



2階会場

(学芸課 嶋崎るり子)

語る」に飛び入り参加をしてくださった  
森崎偏陸氏。「時代を挑発する—寺山修司  
昌男先生。目を輝かし身を乗り出して聴  
講していた私たちは、三十分も

長くお話しくださったことに気  
付かなかつた。深夜まで、展示  
をしてくださったシーザー氏や  
大澤氏、スタッフの方々。関連  
企画「寺山修司映像パノラマ  
館」の美術館での上映。広報や  
目に見えない所で協力、援助し  
てくださった方々。そして、こ  
の展覧会をご覧になり、盛り上  
げてくださった皆様。これら多  
くの方々に感謝とお礼を申し上  
げます。ほんとうに、ありがと  
うございました。

をめぐつて」を講演してくださった山口  
昌男先生。目を輝かし身を乗り出して聴  
講していた私たちは、三十分も

長くお話しくださったことに気  
付かなかつた。深夜まで、展示  
をしてくださったシーザー氏や  
大澤氏、スタッフの方々。関連  
企画「寺山修司映像パノラマ  
館」の美術館での上映。広報や  
目に見えない所で協力、援助し  
てくださった方々。そして、こ  
の展覧会をご覧になり、盛り上  
げてくださった皆様。これら多  
くの方々に感謝とお礼を申し上  
げます。ほんとうに、ありがと  
うございました。

大江 満雄

## 詩集『日本海流』（昭和十八年）

### 四萬十川

おもふほど  
おもふほどに  
ふるさとは雨と嵐。  
山峠の水もくるふて流れあふれる  
豪雨の日。

天のはげしきを  
おもふほど  
おもふほどに  
ふるさとの雨の降る日は美し。

四萬十川河畔に建つ「四萬十川」詩碑

父急死の年、大江は俗世の強い母から逃れるように東京に出た。この出郷の絆みを、幼い生活者

親たちは死んだ生物だった／子供は生きようと思つて／家出してしまつた／幽靈を動かない表情に感じたから／子供は生活に明るい色彩と音と象が欲しかったのだ

とうたつたほどだ。

大江にとって故郷はいつも「美しく」、「くるふて流れあふれる」なものであった。

×  
×  
×

父急死の年、大江は俗世の強い母から逃れるように東京に出た。この出郷の絆みを、幼い生活者

親たちは死んだ生物だった／子供は生きようと思つて／家出してしまつた／幽靈を動かない表情に感じたから／子供は生活に明るい色彩と音と象が欲しかったのだ

とうたつたほどだ。

大江にとって故郷はいつも「美しく」、「くるふて流れあふれる」なものであった。

五月月中旬に三〇度近い陽ざし、南国土佐ではちっとも珍しくない。

眼下の河川敷は、大きな陽溜りをつくつていた。土堤にはんやり突つ立つてると、陽ざしは、草花々の斜面をさわさわと這いのぼってきて、こちらの足元をも炙りにかかる。

四萬十川べり（中村市）にある大江満雄碑（一九〇六～一九九一・宿毛市生まれ）の詩碑（掲詩）は、連日の炎天下にちょびり暑苦しそうであった。埃にまみれ、上部に搦みつけた草は、まるで緑色の帽子。

詩碑に隣接して、中村高女十一名の慰靈碑が建っている。大正四年、桑採り実習に対岸の具同に渡ろうとして渡船が転覆、溺死したのである。「四萬十川」は彼女たちへの悼詩であるとともに、大正九年、幡多地方を襲った豪雨のために、ひどく困窮した生家（大江の父はそのために急死した）のつらい思い出もふくまれている。

観光資源としてもやはりされる四萬十川は、この詩にはない。田畠、家屋を流し、生活者の命をも奪う恐怖すべき川があるのみだ。

大江には四つのオリジナル詩集がある。社会の弱者を表現主義手法でうたいあげた「血の花がひらくとき」（昭和三年）、抒情詩から脱け出そうと自己拡大を試みた「日本海流」（昭和十八年）、自己浄化と第一詩集以前の心象をにじませた「海峡」（昭和三十一年）、神と機械について考察した「機械の呼吸」（昭和三十年）。その詩風の変転をよく指摘されるが、揺れ揺り戻される振幅の谷間で西陽に照らされたとき、大江は次のように自戒した。「一切の社会的矛盾を自己に集中することによって鍛接の美が生じると思った」「私は見晴らしのよい安全な場」に在ることはできなかつた。危険な不安定な「場」でたたかふことによつてのみ彼岸をかんじることができると思つたらう」と。

そのつど求心的な姿勢で自己の内部を整え、詩を泡立たせ、新たな生を獲得していくのがわかる。

詩と生に時差を持たないまつとうな詩人の歩みである。

戦後、ユネスコ運動に参加。またハンセン氏病患者詩集編纂に精力的に活動するなど、大江は土佐には珍しい実践的なヒューマニスト詩人であった。

（国則三雄志）

見どころ●幡多郷土資料館●佐田の沈下橋・遊覧船。●トンボ公園●安通IIJR高知駅より中村、宿毛行特急、一日九本。

## ヒューマニスト詩人

資料受贈報告  
(平成十三年三月～十三年五月)  
敬称略

敬称略

▼川柳木馬ぐるーぶ「現代川柳の群像 上・下 北村泰章編 川柳木馬ぐるーぶ」ほか ▼川上こよね著刊

▼市原麟一郎「土佐の神仏たんね歩型作品集」山道川上こよね著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼山村瑞子「たとえば木綿の山村瑞子著刊」ほか ▼たむらちせい・沖峰遺墨集 筆の友書道会編刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼公文徹「短編集」龍馬と半平太

▼公文徹著刊」▼松岡洋一「松岡雲

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼山村瑞子「たとえば木綿の山村瑞子著刊」ほか ▼たむらちせい・沖峰遺墨集 筆の友書道会編刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼公文徹著刊」▼松岡洋一「松岡雲

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

▼伊藤丘城「顔真卿・人と書伊藤丘城 現代書道研究蒼丘会」▼林亮「林亮句集」高知林亮著刊

## ◆◆◆文学館日誌 2001年3月～5月◆◆◆



4/21 朗読の会  
「寺山修司 ことばのゆりかご」



4/28 記念トーク  
「寺山修司を語る」



5/19 朗読の会  
「寺山修司 ポエムの世界  
五月をうたう」

◆4月  
◆6日 シルバー大学入学式のため橋本知事他2名来館。◆7日 専門講座「近世上佐の横矢エリ氏ご来館。◆21日 朗読の会 第一部「アルプスの少女ハイジ」スイスメルヘン紀行」より（朗読／上佐女子中高等学校放送部の方々）。第二部同校吹奏楽部・コラス部の演奏と歌。文学館ホール。参加者150名。◆25日 新光会8名ご来館。奈良市の横矢エリ氏ご来館。◆28日 本の読み聞かせ（高知こどもの図書館の方々）文学館2階ロビー。参加者20名。

◆4月  
◆6日 シルバー大学入学式のため橋本知事他2名来館。◆7日 専門講座「近世上佐の横矢エリ氏ご来館。◆21日 朗読の会 第一部「アルプスの少女ハイジ」スイスメルヘン紀行」より（朗読／上佐女子中高等学校放送部の方々）。第二部同校吹奏楽部・コラス部の演奏と歌。文学館ホール。参加者150名。◆25日 新光会8名ご来館。奈良市の横矢エリ氏ご来館。◆28日 本の読み聞かせ（高知こどもの図書館の方々）文学館2階ロビー。参加者20名。



4/28 寺山修司展オープニング式典

◆4月  
◆13日 記念講演会「時代を挑発する—寺山修司をめぐって—」開催。◆14日 記念講演会「時代を挑発する—寺山修司をめぐって—」講師山口昌男氏。高新区文化ホール。参加者90名。高畠華宵大正ロマン館高畠重章理事長、高畠澄江館長ご来館。◆19日 朗読の会「寺山修司ボエムの世界・五月をうたう」。文学館閲覧室。参加者40名。◆31日 高知女子大学生56名ご来館。



5/13 記念講演会  
「時代を挑発する  
—寺山修司をめぐって—」

◆3月  
◆1日 ミニ企画「川端康成ほか作家直筆原稿展」開催。4月15日まで。◆2日 原稿出品者山本有光氏御夫妻来館。◆8日 追手前小学校4年生22名ご来館。高知市教育研究所生徒5名ご来館。春野町立西小学校生徒3名ご来館。◆9日 追手前小学校5年生21名ご来館。◆10日 第6回文学力レッジ「寺田寅彦の欧洲日記を旅する」。講師永国淳哉氏。文学館ホール。ストーリー・テリング（高知こどもの図書館のみなさん）。文学館2階ロビー。参加者10名。◆15日 高知市教育研究所6名ご来館。追手前小学校6年生24名ご来館。◆17日 上佐嶺北文学散歩 参加者31名。バスで大原富枝文学館・大原富枝の墓所、酒蔵桂月館・大杉の記念碑などをめぐる。高石敏夫氏、澤田輝夫氏の解説をいただく。県立文学館中庭の一上佐文学塚』を制作された流政之氏他2名ご来館。◆20日 記念講演会「アルプスの少女ハイジの思いがけない現代性」。講師矢川澄子氏。文学館ホール。参加者80名。

◆3月  
◆1日 ミニ企画「川端康成ほか作家直筆原稿展」開催。4月15日まで。◆2日 原稿出品者山本有光氏御夫妻来館。春野町立西小学校生徒3名ご来館。◆9日 香川大学経理部長大窪彦人氏ご来館。◆12日 横倉山自然の森博物館安井氏来館。◆14日 越知町の山本有光氏より作家直筆原稿を寄贈される。文学館「カルチャーサポート」認定式。12名。◆20日 香川大学経理部長大窪彦人氏ご来館。三里史談会久保田昭賢氏、竹倉美智氏来館。◆21日 朗読の会「寺山修司ことばのゆりかご」朗読の会の方々による。文学館ホール。参加者40名。◆22日 「川端康成ほか作家直筆原稿展終了。専門講座「近世上佐の文人たち（尾池春水）」講師竹本義明氏。◆24日 高知北高校ご来館。◆26日 議会文化厚生委員会一行ご来館。◆28日 「寺山修司展 テラヤマ・ワールド—きらめく闇の宇宙」開催。6月3日まで。「オープニング式典」九條今日子、J・Aシーザー他諸氏による

◆3月  
◆3日 午後6時まで開館時間延長。◆4日 寺山修司展他館関連行事「高知県立美術館特別上映会 寺山修司映像パノラマ」。◆5日 寺山修司展他館関連行事「高知県立美術館特別上映会 寺山修司映像パノラマ」午後6時まで開館時間延長。◆5日 寺山修司映像パノラマ館。◆9日 田岡典夫書簡をご寄贈下さった山村瑞子氏ご来館。◆12日 J.R北海道（流政之ツアーワーク）厚生委員会一行ご来館。◆30日 静安岡章太郎・開高健など九名、十景（180冊）；原稿は川端康成・井上一編の作品に関わるものであり、色紙は吉行淳之介など三名、五点となっています。永く編集者として出版に携わってこられた中で山本さんが手に入れられたもので、いずれも得難い貴重な資料です。文芸雑誌『風景』は、紀伊国屋書店を中心として東京都内の大型書店・五十店が集まつた「懇々会」が、各書店のお得意様にサービスとして配布した月刊文芸雑誌で、昭和三十五年十月創刊から五十年九月終刊まで丁度十五年間続きました。バックナンバーが全て揃っています。



川端康成原稿「落花流水」

このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

楠瀬大枝書画軸「うくたから」



から元田岡典夫担当編集者船曳由美氏が金澤典子氏らご来館。寺山修司展他館関連行事「高知県美術館特別上映会 寺山修司映像パノラマ館」。

# 高知県立文学館カレンダー

2001年  
7～9月

7月—July

8月—August

9月—September

催しもの

## ミニ企画展 ～大佛次郎賞受賞記念～ 安岡章太郎『鏡川』展

平成13年1月30日に第27回大佛次郎賞を受賞された、当館名誉館長安岡章太郎の小説『鏡川』のコーナーを設けてご紹介しています。安岡の直筆の原稿をはじめ主人公格の西山 小鷹にまつわる資料等、関連資料を展示しています。

＜期間＞6月1日(金)～8月19日(日) ＜場所＞常設展示室内

講座など

## 【第4回児童生徒文学作品朗読コンクール】

県内の小・中学校においては、国語科の授業の中で、さらには読書指導や朗読会などの場を通して、児童生徒が文学に親しむ機会を作り出します。当館でも、朗読を通して文学に親しむこどもたちを育てたいという願いから、第4回朗読コンクールを開催いたします。

### ◆地区審査（県内3会場）

- 大方会場 大方あかつき館 8月21日(火)
- 安芸会場 安芸市民会館 8月23日(木)
- 高知会場 高知城ホール 8月26日(日)

### ◆県審査（公開）

＜会場＞高知県立文学館1階ホール

＜日時＞11月11日(日) 午後1時～

(最終審査後に表彰式、記念講演会)

### ■記念講演会

＜講師＞角野栄子先生（「魔女の宅急便」の作者、児童文学者）

#### 演題「ことばは魔法」

※詳しい内容は文学館までお問い合わせ下さい。

特別企画展

## 2001年 夏季企画展

### 「とんとむかしにあそびにきいや！」

## 土佐のむかしばなしと伝説」7月1日(日)～8月31日(金)

土佐に伝わるゆたかな昔話や、不思議な伝説。妖怪がいて、狸やおどけものがいる、そんな昔話の世界を楽しんでいただけます。

### 関連行事

#### ■文学館かみしばい劇場&むかしあそび体験

市原麟一郎さん（土佐民話の会）による紙芝居と、なぞなぞあそび、高知子どものあそび研究会の皆さんによるむかしあそび。

##### ●仁淀川民話めぐり（14時～15時）

7月1日(日)、10日(火)、20日(祝)

##### ●土佐のおばけばなし（14時～15時）

8月1日(水)、10日(金)、19日(日)、30日(木)

＜場所＞高知県立文学館茶室または、文学館ホール

※参加無料

(参加者にはそれぞれ先着30名様に民話カードセットをプレゼント)

### ■土佐のお地蔵さまめぐり

土佐民話の会の市原麟一郎さんによる、土佐のお地蔵さまのスライド上映と解説。

＜日時＞（それぞれ13時半～15時）

7月28日(土)、8月4日(土)、25日(土)

＜場所＞高知県立文学館ホール

※参加無料

【休館日】7月—2, 9, 16, 23, 30日 8月—6, 13, 20, 27日 9月—3, 10, 17, 25日

### 山内一豊入国400年共同企画

### 土佐山内家宝物資料館主催の企画展

9月29日～11月4日 於：文学館

## 「近世大名の誕生－山内一豊 その時代と生涯－」

### 次回企画展

### 山内一豊入国400年共同企画

## 「おあん、婉、お馬…土佐の近世の女性と文学」11/22～1/6

関ヶ原の戦いを実際に体験した女性おあんさん、父兼山の失脚で40年の宿毛幽囚の日々を生きた野中婉女、僧純信との恋にかけ、国抜けをしたお馬さん。土佐の近世を懸命に生きた女性たちを関連文学作品とともにご紹介します。12月8日(土)に記念講演会を予定。

主催：高知県立文学館

### 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(休日・祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月26日～1月1日)

観覧料 一般350円

特別企画展のあるときは、料金が変わります。(一般550円)  
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県(市)長寿手帳所持者及び身体障害者手帳、療育手帳、障害者手帳所持者等とその介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

### 交通のご案内



- 高知空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
- JR高知駅下車徒歩20分
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分

